

平成21年度 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500752		
法人名	社会福祉法人 穩寿会		
事業所名	グループホーム かえて (うぐいすユニット)		
所在地	千葉県千葉市緑区高田町1084-2		
自己評価作成日	平成21年10月25日	評価結果市町村受理日	平成22年2月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成21年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当たり前のことがなるべく自力で行えるように、個々に合った支援が出来るように、職員同士で利用者の情報や支援の仕方を共有したり意見交換している。「自宅にいたら...」「人として...」という感覚を忘れずに、その上で個々の認知症の状態に合わせて、生活が出来るように支援している。また事業所だからこそリサイクルやエコ活動に積極的に参加している。(利用者にも参加してもらっている。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

千葉市の建築賞を受賞した平屋建て、全室南向きガラス張りの建物は明るく気持ちが良い。広い庭を利用した家庭菜園があり、旬の野菜が食卓に上る。「個々の役割を生きがいにつなげる支援」という分かりやすい理念を職員全員で実践している。入居者は気軽に外出したり、できることを手伝う中で生活を楽しみ、職員は入居者の生活を支えることに、喜びを感じている様子が伺える。管理者、主任は職員の話をよく聞こうという姿勢を持ち、コミュニケーションを図るようにしており、職員が意見を言いやすい環境である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価(うぐいすユニット)・および外部評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個々の役割を生きがいにつなげる支援」に対して、入居者個々の能力に合わせた取り組み(清掃・食事作り・洗濯物タタミ等)を行っている。	理念は具体的に介護の現場で実践されており、その成果が実ってきている。利用者ができることは自らの意思と力で成し遂げるのを見守り、手伝いを依頼するなどして、入居者が他の入居者やスタッフの役に立てる喜びを見出せるよう支援している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の買物において、近くの商店へ食事の食材を買いに入居者と出向いたり、事業所の敷地内を地域へ開放しており、近隣の子供達が遊びに来ている。	敷地内の自動販売機や広場を近隣の子供や人々に開放したり、町内の運動会に参加するなど地域との交流を図っている。また、自治会を通して事業所の行事への参加呼びかけなどを行うなどホーム側からも情報発信をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会の会議で、地域の高齢者に役立つ事などを話し合い、あんしんケアセンターと協力して講座等を開催する予定。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画や外部評価も含めた報告、地域の中での行事企画の話し合い等、その他さまざまな問題を議題として、運営推進委員の意見を取り入れながら行っている。	構成メンバーは町内会会長、民生委員、地域の知見者、地域包括支援センター職員等で、この1年に4回開催している。出された意見をホームの運営に反映するようにしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のグループホーム協会の活動で行政との親睦会があり、意見交換を行っている。また事業所の取り組みの相談や報告等で頻りに連携が取れるよう努めている。市への提出書類等わからない事は直接電話連絡で確認している。	管理者は千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会の世話人を引き受けており、行政との相談、要望・意見交換、情報入手など直接・間接に連携している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が順番に県主催で行われる身体拘束の研修に参加して知識を蓄え、ミーティング等で意見を出し合い取り組んでいる。	身体拘束は玄関の施錠を含め、していない。ホームから外に出る時には、ドアにつけたベルが鳴るようになっており、入居者が外に出るのがいち早く分かるようにしている。訪問者が来た時と区別できるように、訪問者にはドアチャイムを鳴らしてもらうようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や全国グループホーム協会等の資料を参考にして職員に知る機会を設けており、ミーティング等で具体例を出して虐待防止に努めている。		

グループホームかえて 自己評価(うぐいすユニット)・外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加して関係機関と話し合っているが、現在必要と思われる者がいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際に書面を用意して説明しており、不明な点を聞き再度分かりやすく説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で職員が入居者から意見を聞いたり、また介護相談員が入り実際に入居者と会話をして、後で介護相談員と職員で意見交換して運営に反映させている。	入居者の意見は職員や介護相談員を通じて吸い上げるようにしている。家族の意見は運営推進会議や面会時に聞くようにしており、実際にドアチャイムについては家族から出た意見を取り入れた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングの際に、職員が意見を言える場を設けている。また職員が個別に意見がある時には提案を聞き反映させている。	職員はミーティングや日々の申し送りの中で意見を言っている。その中で車椅子のズリ落ち防止や、転倒防止策が考えられ実施されてきている。利用者の手伝いを容易かつ、安全にするため配膳のお盆、ワゴンの購入なども提案され実現している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況の把握と評価をし、給与や賞与に反映させている。また研修情報の提供や、グループホーム協会の機関紙等の閲覧により各自の向上心に働きかけている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的に行われる合同研修に参加させたり、ミーティングにおいて勉強会を行ったり、また外部研修にも参加出来るように勤務調整をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し同業者との交流を図り、各種研修や話し合いに参加してサービスの改善や向上が出来るように取り組みをしている。		

グループホームかえて 自己評価(うぐいすユニット)・外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面接や入居直後には本人とのコミュニケーションを大切にし、よく話を聞き不安を取り除くように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居申し込みの際に本人状況や困っている事を聞き、入居直前には電話連絡や面接等で家族とコミュニケーションを取り、関係作りに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の状況と家族の希望を聞き、それに基つき必要に応じグループ内事業所の案内を行っている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>食事準備においての工夫や味付け、また年間祭事の事など、他にも多くの生活場面のアドバイスを受けながら行っている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>どのような場面においても面会や外出の制限はせず、また家族が参加できる行事も企画して一緒に楽しんでもらっている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の協力の下生まれ故郷に里帰りされたり、以前住んでいた所へ散歩がてら行き、そこの住民と会話も出来るようにしている。</p>	<p>地域の運動会に出かけ昔からの知り合いに会ったり、馴染みのスーパーに買物に行くこともある。電話での会話を支援することもある。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>リビングでの座席を決める時、話しが出来る者同士を同じテーブルに調整したり、また職員が入居者同士の会話の中に入り連携を取っている。</p>		

グループホームかえて 自己評価(うぐいすユニット)・外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後の家族には近くに来たら気兼ねなく寄って下さい等の声かけをしたり、また入院されている方については、時々お見舞いに行き家族と話しをしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で希望を聞いたり、またケアプラン作成時には必ず今後の生活希望を聞き盛り込むようにしている。内容を情報として家族へ伝えている。	入居者同士の会話の中から意向を把握したり、希望の表出が困難な人には、具体的な選択肢を示して選んでもらったりしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接や入居時に生活歴を聞いている。わからない事がある時には、その都度聞くようにして支援に役立てている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の身体状態や精神状態により、その日の過ごし方を生活場面事に考慮し対応している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見や日頃の様子、家族の意見、必要な関係者(職員や主治医等)の情報を反映した介護計画を作成している。	入居者の意向を掴み、家族の意見は面会時に聞くようにしている。また、入居者の担当職員が決まっているので、職員からアセスメントを取ったり、ユニット会議で他の職員の意見を聞いて、計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入した物も参考にして、介護計画の評価を3ヶ月に一回行い、現状の変化に応じて介護計画の変更をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人グループ内の事業所と連携を取り、一時的な医療色の強いケア、または催し物等で行き来している。		

グループホームかえて 自己評価(うぐいすユニット)・外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の自治会では町内運動会などの入居者の参加に協力してもらったり、近隣の商店では入居者の買い物に利便図ってもらっている。定期的に音楽ボランティアにも入ってもらっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の理事長が認知症の専門医でもあり、適切な医療を受けられている。医療相談にも応じてくれている。	ホームの協力医のほかに、もともとのかかりつけ医の診療を希望する入居者がいれば、受診を支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の特養看護師に相談したり、地域包括支援センターの看護師にも相談する事がある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には担当医に入院期間の確認を定期的に行ったり、病院のソーシャルワーカーとも連絡を取り合い情報収集に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時での十分な説明を行ない、また重度化して行く早い段階で、個々のケースに応じて主治医や家族との話し合いをしている。	入居者は年々重度化していくので、その過程で家族等と話し合いながら方針を決めることにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防局で行われる救命講習に参加し、救命技能を学んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定などの避難訓練を定期的に行ない、地域住民にも自治会を通じて、協力をお願いしている。	年1回は避難訓練を実施しており、近隣の協力を得られるよう町内会会長にも呼びかけている。	全職員が避難方法を身に付けるためにも、訓練の実施回数を増やし、さらに引き続き地域の協力を得られるように努力していくことが望まれる。

グループホームかえて 自己評価(うぐいすユニット)・外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応には常に注意し、職員同士が注意し合えるよう体制を作っている。ミーティングでは具体例を出して適切な言葉使いを共有している。	トイレのドアをきちんと閉める、大きな声でトイレ誘導はしない等、職員ひとりひとりが意識して行動している。また、職員同士の会話では略語を使用して、入居者等に話を聞かれても分からないようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、本人のこれからやりたい事や昔好きだった事を話しながら、なるべく選択肢を設けて聞き、取り組みへ生かしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のペースや排泄間隔など個々人に合わせて対応している。レクリエーションなどでは何がやりたいか聞きながら行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容については希望に応じ、パーマをかける方もいる。衣類は入居者に合った物を家族が用意して着用している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作る事が好きな入居者は、準備や調理に積極的に参加されている。片付けにおいても個々の能力に応じ、台車を用意するなどして行っている。	調査当日も、入居者が食事の盛り付けをしたり、ワゴンで食事を運ぶ姿が見られた。職員も同じテーブルを囲み、和気藹々と食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮し一日のカロリーにも注意して、油物はなるべく控えめに調理している。一人ひとりが一日を通して必要な摂取量が取れるように支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや入れ歯を洗うように促し見守るなど、個々の状態に応じて支援している。入れ歯の夜間あずかりも行いポリドント洗浄も行っている。		

グループホームかえて 自己評価(うぐいすユニット)・外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じて、排泄パターンの把握や排泄サインの見極めによりトイレ誘導を行っている。また介護計画に組み込み、評価によりオムツを外す支援も行っている。	排泄チェック表でパターンを把握しつつ、入居者の様子から、タイミングを見てトイレ誘導している。排泄の自立支援は介護計画にも盛り込むようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつには積極的に乳製品や繊維質が多い食品を取り入れるようにしており、また便秘症の方には排便の確認もしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には毎日入浴出来る体制を取っており、遅い時間に入りたいなどの希望も盛り込み行っている。	希望があれば、毎日でも入浴できる。時間についても、出来る限り要望に応えるようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後居室に戻って横になりたい方、しばらくリビングでテレビや雑談を楽しみたい方など、個々に応じて対応している。体力に応じて昼寝が必要な方へも支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の基に処方される薬に対して、説明書を確認して対応している。自分で服用できる方には見守り、出来ない方には介助にて服用を確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事、得意な事(掃除・料理・裁縫・洗濯タタミ等)を楽しみながら出来るように支援している。またボランティアによる演奏や法人内事業所へ出向き踊り等も楽しんでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員付き添いで買い物へ行ったり、気候の良い日はなるべく散歩をするようにしている。また公用車を使用し季節の合った行楽地へも行っている。	日常的に散歩や買物に出かけており、調査当日も、外出した入居者が昼食時に「外は寒い」等と話すのが聞こえてきたりした。	

グループホームかえて 自己評価(うぐいすユニット)・外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には個人の預かり金を事務所で管理しているが、本人の能力により買い物の際にお金を渡し使ってもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が本人用の携帯電話を預けていたり、直接電話をする機会もある。年賀状や暑中見舞いを書く機会も作っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等の共用スペースに季節の花を飾ったり、掲示板には入居者の作品を掲示したり入居者の写真を貼るなどしている。	共用空間はゆったりとしており、明るさも温度も適切である。リビングの一部に畳部分があり、掘りごたつで寛ぐ人もいて家庭的な環境である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭の椅子や廊下のソファで独りになれたり、入居者同士で和室でテレビを見たりして思い思いに過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に家族と一緒にベットや家具の配置を考えたり、本人の馴染みの物を待って来てもらったりしている。	どの部屋も南向きで日当たりが良く、明るい。それぞれ、好みの物を置いたり飾ったりして、各部屋とも暖かみのある居心地の良さそうな空間になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーになつており、廊下やトイレには手すりが設置してある。居室入口への目印やトイレに張り紙をするなどの工夫をしている。		